

◎ 彙報

第三七回 原爆文学研究会

- 日時 二〇一一年二月五日(日) 一三時より
○会場 九州大学西新プラザ中会議室
○創立10周年記念ワークショップ「原爆文学研究この10年、これからの10年」
報告1 一番はじめの出来事

報告2 機関誌「原爆文学研究」に見る本研究会の成果と課題

報告3 日米の教育現場から

報告4 台湾という場所からみた原爆と原発

報告5 「3・11」以降の「原爆・文学・研究」

コーディネーター 川口隆行)

第三八回 原爆文学研究会

- 日時 二〇一二年三月一七日(土) 一四時より
○会場 福岡大学セミナーハウスセミナー室D
○研究発表
占領下の原爆言説——カストリ雑誌は何を伝えたか

「生活記録」から「証言」へ

——「長崎の証言」刊行委員会創設期とその周辺

石川 巧

東村 岳史

第三九回 原爆文学研究会

- 【一日目】二〇一二年七月七日(土) 一三時より
○会場 広島大学東千田キャンパスL404教室
○研究発表
原爆死没者慰霊碑文の英訳について

——グローバリゼーション下の想像力 齋藤 一

被爆地広島島のサークル詩誌『われらの詩』と峠三吉 宇野田 尚哉

大石又七の表現

——核と向き合う戦後思想のひとつの可能性として 小沢 節子

【二日目】二〇一二年七月八日(日) 九時一〇分より
○ワークショップ「北米文学における核の表象について」

報告1 Nuclearism and Post-War American Culture
マイケル・ゴーマン

報告2 核をめぐるアメリカ南西部の文学

——サイモン・J・オーティーズの詩を中心に 松永 京子
報告3 日系カナダ人作家 Joy Kogawa の作品における「原爆」
松尾 直美

核エネルギー、文化、社会合同合評会

- (レイモンド・ウィリアムズ研究会主催、原爆文学研究会共催)
○日時 二〇一二年八月三十一日(金) 一三時より
○会場 関西学院大学大阪梅田キャンパス 一四〇六講義室
合評会1 山本昭宏『核エネルギー言説の戦後史 1945-1960』「被爆の記憶」と「原子力の夢」(担当 川口隆行、西亮太)
合評会2 『レイモンド・ウィリアムズ研究』第3号「特集 原子力、社会、文化」(担当 柳瀬善治、野坂昭雄)
(総合同会 河野真太郎/総合討論司会 大貫隆史)